

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒154-8533 _____
東京都世田谷区太子堂1-7-57

E-mail info@jhs.swu.ac.jp

Website http://jhs.swu.ac.jp

児童生徒数 男子 0 名 女子 1330 名 合計 1330 名
 児童・生徒の年齢 13 歳～ 18 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

①環境教育

- 各教科カリキュラムにおいて環境教育について積極的に取り入れた。またそれが、教科横断的に展開するよう心掛けた。
- 生徒会（保健部委員会）を中心に、徹底的なゴミの分別と環境保全に努めた。
- 第4回ESDアシストプロジェクトで購入した落ち葉や生ゴミを堆肥に変えるためのコンポスト「ロータリーコンポスター」を活用し、堆肥を花壇に使用することを継続的に実施している。生徒の3Rに対しての意識向上にもつながった。
- 12月に実施した海外研修旅行において、訪問各国（ベトナム・マレーシア・オーストラリア）の環境問題について考え、ベトナムではマングローブ林再生のために、植樹を行った。
- 各種ボランティア清掃（校内・近隣・近隣公園等）に積極的に参加した。
- 校内で、「エコクッキングコンテスト」を開き、色々なアイデアのレシピの応募があった。

②国際理解教育

- 中学生徒全員に対する長期英語教育プロジェクト（本校ではThe Boston Missionと呼んでいる）を実行した。特に中学2年生全員が経験する現地研修では、現地生徒との交流を通し異文化理解に努めた。
- 高校1年生を対象に行った国内外研修旅行のプログラムにおいては、各国（ベトナム・マレーシア・オーストラリア）の文化を体験し、その理解を深めた。
- 高校生対象の（任意参加）英国短期留学プログラムにおいては、ホームステイを中心に、異文化理解を深め、国際的な視野を広げる機会となった。
- 本学園に併設されているブリティッシュスクールイン東京の生徒との交流機会においては、お互いの文化を知る機会として、お互いの国のアクティビティーに参加するInter National Day、英語劇の共同開催等日常的に海外文化を感じる環境が整った。
- イギリスからのギャップイヤーを活用したアシスタントティーチャーを2名受け入れ、日常的に生徒と接触し、国際理解を深めた。
- ユニクロの“届けよう、服のチカラ”プロジェクトに参加し、事前学習（元ミャンマーの難民の方のお話、UNHCR広報官のお話、ユニクロ社員による出張授業）を通して、難民の生活や日本の受け入れ状況などの国際情勢について学んだ。
- 国際教育交流事業「韓国教職員招へいプログラム」で、38名の韓国の先生方が来

校し、授業見学や、教員・生徒との交流を持ち、異文化理解を深めた。

- 世界で活躍しているフォトジャーナリストの林典子氏の講演会を開き、「いま、この世界の片隅で～写真で伝えるストーリー」というテーマで、アジアやアフリカの様々な人々の生活について実態を学んだ。
- ジャパンアートマイルプロジェクトに参加し、インドネシアのTUGASK中学校とメールやスカイプで交流し、「両国の伝統文化と世界のつながり」をテーマに、壁画を共同制作した。

③他者理解教育

- 中1～高2まで、学年ごとに5日間の研修学寮を実施。ボランティア活動や集団生活を通して、他者を理解する力、コミュニケーション能力の向上に向け、研鑽した。
- 様々な授業において、グループワークやペアワーク、ディベートを取り入れ、コミュニケーション能力の向上に努めた。
- 高1～2の行学の授業で、サービ斯拉ーニングを行い、様々なボランティア体験、問題解決への学びを行い、プレゼンテーション能力も高めた。
- ユニクロの“届けよう、服のチカラ”プロジェクトに参加し、附属の幼稚部 初等部、近隣の保育園、交流している田園調布学園の協力も得て、約4000枚の寄付を募り、UNHCRを通して、ウガンダの難民キャンプに送り、現地の子どもたちからのお礼のメッセージを受け取ることができ、役に立つ喜びとつながりを実感することができた。
- 田園調布学園との共同ボランティア活動として、「フェルト絵本」を製作し、「福島被災地の子どもと本をつなぐ会」に寄付した。
- 次の機関等との連携を通し、ボランティア活動や募金活動を行った。
 - ◇重症心身障害者施設「あけぼの学園」
 - ◇「ホスピア三軒茶屋」
 - ◇「ユニセフ協会」
 - ◇「日本肢体不自由児協会」
 - ◇「キャップの貯金箱推進ネットワーク」
 - ◇「HOYA株式会社 eyeシテイ」
- 他者理解教育の一環として、次の方々に講演していただいた。
 - ◇新井晴み氏によるシナリオ朗読「エリカ」公演(ナチスドイツのユダヤ人に対する迫害の中奇跡的に生き延びた少女のお話)を通して、人権 平和について学び、考えを深めることができた。保護者の希望参加者もあった。

④生徒への啓蒙

■個人研究「私の研究」では、研究テーマを全生徒がESDの内容に合致したものから設定。年間を通しての研究においても、常に各自が課題発見、それを文献調査や実地調査等で解決していくという学習過程が確立している。

■校内ESD大賞を設定。5作品が応募。

総務部委員会の「アートマイルプロジェクト」

私の研究：教員講座の1グループ「フェルト絵本を通してのボランティア」の活動が大賞に選ばれた。

⑤学校として

第7回ユネスコスクール全国大会において、「学習指導要領とESD」の部門で「世界に貢献できるグローバルリーダーの育成」をテーマに事例発表を行った。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（委員会活動）